

特別イベント

ワンピースコラボ

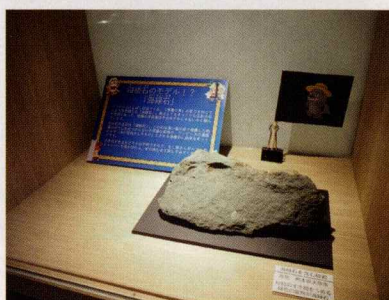
2月9日(火)～28日(日)の期間中、ファミリーアワー特別放映として「ワンピース プラネタリウム」を実施しました。本放映は文化庁委託事業「博物館異分野連携モデル構築事業」の一環として開催したものです。

新型コロナウイルスの流行、そして熊本県独自の緊急事態宣言発出の影響で観覧者数が落ち込む中での実施でしたが、約3週間という短い間に大変多くの方にご観覧いただきました。

また、展示室ではワンピースの放映に合わせて、登場人物にちなんだ「熊本博物館のお宝」とミニ解説パネルを設置しました。パネルを探すために楽しみながら宝探し気分で見学室を隅々まで見てもらえたのではないのでしょうか。

「分野別パネル一覧」

- <歴史> 竹内家文書・肥後筒
- <美術工芸> 刀・脇差・薙刀(同田貫)
- <保存科学> 館内の飲食禁止について・博物館の地震対策
- <民俗> 雨乞い絵巻・薬研・昭和の家(台所)
- <動物> ニホンジカ(頭骨)
- <植物> パラゴムノキ
- <地質> 河内の山中で“偉大なる航路”気分!?・海緑石



熊本の自然

江津湖でみられる魚類 ～イチモンジタナゴ～

江津湖とその周辺水域では、イチモンジタナゴが見られます。名の由来である体側の長い縦線は青緑色で、その上に接する線は見る角度により桃色や紫色に色合いを変えて輝きます。また、繁殖期のオスはえらぶた周辺が桃色に、背びれ、尻びれ、尾びれの先端が白色から淡い桃色に色づき、息をのむような美しさになります。

琵琶湖淀川水系や濃尾平野などに分布する日本固有種で、絶滅危惧種でもあるのですが、本来の分布域ではない熊本・江津湖にとっては“外来種”です。江津湖ではタナゴ類が激減しており、一時期増えたこのイチモンジタナゴも同様に数を減らしていました。ところが、ここ数年、調査のたびごとに採集されるようになりました。それが肉食性外来魚駆除の効果や生息環境の改善などに起因するのであれば、生活要求の似た他のタナゴ類も回復しつつあるのかもしれません。今後、在来種のタナゴ類に加え、競争関係にあるイチモンジタナゴのモニタリングが欠かせません。

博物館2階の生物展示エリアでは、イチモンジタナゴをはじめ、魚類の剥製標本を多数展示しています。魚類の剥製は色が褪せやすいため彩色を施すのですが、ここが剥製屋さんの腕の見せどころ。本来の姿をどれだけリアルに再現できているか、図鑑を片手に見学してみたいはいかがでしょう？



くまはく NEWS LETTER

Vol. 6

特別展 「銀河鉄道の夜

— KAGAYA 星空の世界展 —

2021年7月17日(土)～9月5日(日)

2021年5月

熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

■ 展示会報告

- ・企画展 熊本市遺跡発掘速報展
- ・企画展 博物館でひな祭り！

■ 通年講座報告

- ・2020年度通年講座

■ イベント報告

- ・天文講演会 「私達が住む銀河とその中心に潜む巨大ブラックホール」
- ・企画展「ひとのすがた、いのりのかたちー肖像彫刻の世界ー」関連講演会
「仏像の文化財修理について」
- ・サタデーナイトミュージアム

■ 特別イベント

- ・ワンピースコラボ

■ 熊本の自然

- ・江津湖でみられる魚類 ～イチモンジタナゴ～



肥後の見張り番
しゃちべえ

熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

くまはくNEWS LETTER Vol. 6

発行 熊本博物館

〒860-0007 熊本県熊本市中央区古京町3-2

TEL. 096-324-3500 FAX. 096-351-4257

kumamoto-city-museum.jp



展示会報告

企画展『熊本市遺跡発掘速報展』

12月12日(土)～2月7日(日)

熊本市内の近年の遺跡発掘調査で出土した、貴重な遺物を大公開しました。旧石器時代から現代に至るまでの永い歴史が私たちの足元には眠っています。例えば、縄文時代の小さくてかわいい土偶。弥生時代の甕棺は割れてたくさんの破片だったのですが、完全な形に見事に復元されました。平安時代の文字が書いてある墨書土器、身に降りかかった厄災をお祓いた人形(ひとがた)などには、当時の人々の息吹や思いが詰まっているようです。

また、博物館に収蔵されている遺物の中に、発掘から60年以上が経過したものもあることから、「還暦を迎えた遺物たち」と題して展示しました。展示では再調査によって新たに分かった事柄なども反映させました。



企画展『博物館でひな祭り！』

2月6日(土)～3月7日(日)

近年、日本社会は少子高齢化が進んでいます。また、核家族化により、マンションやアパートに住む人々が増えてきています。こうした中、ひな人形を飾り、ひな祭りを行う家庭は急激に少なくなっています。本展示会では、ひな祭りの展示を通して、日本文化の魅力と地域文化の多様性を紹介しました。熊本ならではのひな人形、「おきあげ人形」や「天草土人形」をはじめ、「享保ひな」、そして、ひな人形のルーツである「這子人形」などを展示しました。また、全国で見られる変わりひな人形として、「裸びな」や「豆びな」なども出品しました。



通年講座報告

2020 年度通年講座

2020年度は5分野の通年講座を開講しました。実物資料を前に学芸員が解説を行ったり、野外へ出て観察会や遺跡巡りを行ったり、各講座さまざまな内容で楽しみながら学んでいただきました。

考古学専門講座(6回)

室内では各時代毎に『新熊本市史』をテキストにして学び、実際に土器に触れて考古学を体感。屋外では古墳群や中世城跡などを歩きながら、遺跡の立地の理由を考えました。

民俗学講座(10回)

民俗学の学史について講義しました。本居宣長・平田篤胤ら国学者から柳田國男、そして宮本常一までの民俗学者と、その研究内容について広く紹介しました。

地質学講座(4回)

熊本市域の大地の成り立ちに始まり、雲仙岳の噴火や平成28年熊本地震などの大地にまつわる災害もテーマに講座を実施しました。

動物学講座(4回)

身近な生きものの体のつくりや生態について、特にそれぞれの関わり合いについて考えながらの室内学習と野外観察会を行いました。

植物学講座(3回)

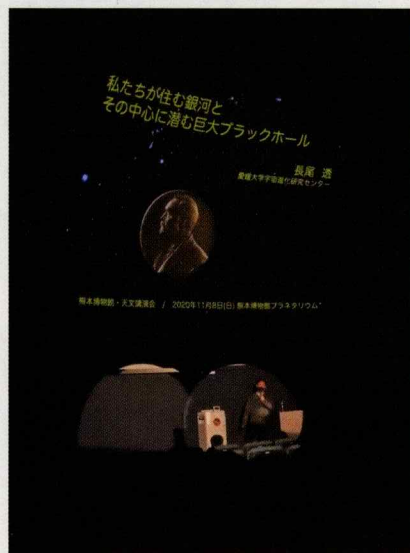
身近な植物の生態や多様性について、標本や写真を用いて紹介し、植物を使った工作体験なども実施しました。



イベント報告

天文講演会「私達が住む銀河とその中心に潜む巨大ブラックホール」

2020年11月8日(日)

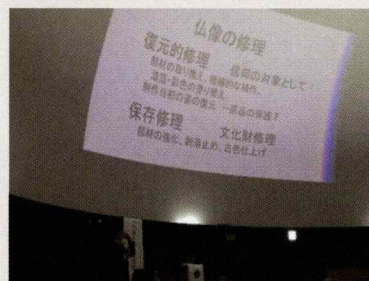


新型コロナウイルス流行の影響でほぼ1年ぶりの開催となった天文講演会では、愛媛大学宇宙進化研究センター教授の長尾透氏を講師としてお迎えし、銀河を構成する恒星と惑星の違いなどの天文学の基本知識から、ブラックホールシャドウの撮影の経緯まで話題になったトピックの解説を交えながら、銀河と巨大ブラックホールの関係についてお話いただきました。天の川銀河中心の巨大ブラックホールに関連する研究がノーベル物理学賞を受賞した影響か、質疑応答の時間には多くの手が上がり、ときには非常に鋭い質問が飛び出すなど大変な盛り上がりでした。講演終了後にも長尾氏に楽しそうに質問をする子どもたちの姿を見て、研究者の先生と直接話をする機会の重要性を改めて感じました。

今後も最新の天文学研究に触れる機会を提供するため、引き続き感染症対策を講じた上で天文講演会を実施する予定です。楽しみに！

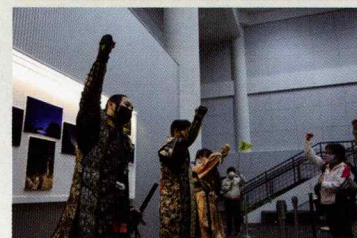
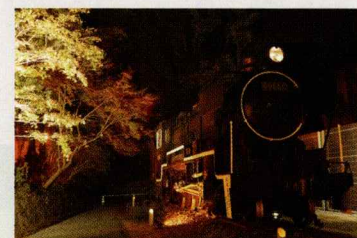
企画展「ひとのすがた、いのりのかたちー肖像彫刻の世界ー」
関連講演会「仏像の文化財修理について」

2020年12月19日(土)



企画展「ひとのすがた、いのりのかたちー肖像彫刻の世界ー」(会期：2020年12月5日～2021年1月24日)の関連イベントとして、講演会を開催しました。講師に公益財団法人 美術院 国宝修理所の陰山修所長をお招きし、「仏像の文化財修理について」と題してお話いただきました。美術院は、明治時代から、日本各地の彫刻作品や大型工芸品の修理を行っており、本展で修理後初公開となった重要文化財《木造東陵永瑠禅師倚像》(雲巖禅寺所蔵、熊本博物館保管)の修理も手がけました。本講演会では、数々の仏像修理の経験から、「文化財として」仏像を修理するということはどういうことなのか、をお話いただきました。本講演会の詳細は、2021年度中に刊行予定の当館館報に講演録を掲載しますので、ぜひご一読ください。

サタデーナイトミュージアム



秋のお城まつり開催期間中、旧細川刑部邸の限定開放と夜間の紅葉ライトアップが実施されることに併せ、熊本博物館も11月21日(土)、11月28日(土)、12月5日(土)の17時～21時に「サタデーナイトミュージアム」として臨時開館(開館時間延長)を行いました。開館中は屋外展示場のライトアップや竹あかりを設置したほか、キッチンカーによる軽食等の販売も行われました。

また、博物館の多彩な活動の一端を紹介するため、「ナイトプラネタリウム」や「もみじの葉っぱで絵はがきづくり」、「マジック・リング」、「ダジックアース」などの様々なイベントを実施しました。「ミュージアムトーク」では歴史、民俗、動物、美術の担当学芸員が展示解説を行い、熊本城おもてなし武将隊に先導された多くの方に、展示物の魅力を伝えることができました。